上つた後は、何等の反對をもなさなかつた。技友會の事業は全く失敗に歸し、其結果彼等は經濟的に大なる打擊を受くるに至つた。

■事件の發端

パンの廉賣を以て、一般勞働者を釣つて來た、彼等は勞働運動とはパンの廉賣にあるかの如く思つて居た樣に見へる。然し會員は益々增加して來た、一般は最早やパンの廉賣のみにては滿足が出來なくなつた。斯くした事實は先進國に於ても、過度期には往々にして見ることが出來るのであるが、一度は政府なり資本家なりの御用組合が出來ても、其の末路は遂に一般勞働者の輿論の爲めに倒れる。彼れ技友會も實にそうであつた。一般勞働者は漸く幹部の態度に就て非難をする樣になつた。幹部は會員より非難され亦た諸事業の失敗より生じた痛手との爲めに實に困つて居たらしい。會員よりは非難され、種々の事業は失敗に歸す、去りとて會社に對する忠義振を一朝にして廢す事も出來まい。經濟的打擊——其の時の幹部の心理狀態の變化——或は當然かも知れない。

三月十一日、十二日、十三日の夜であつた、技友會本部（芝區金杉町良善寺）に於て開きたる幹部會（實は一般職工の入場を許し何人にも發言權があつた幹部會とは名計りである）は實に今回の事件の發端である。越へて十四日の日曜日には、芝七福亭及七大黑亭の二ヶ所に於て技友會が中堅となつて芝浦職工大會を開き、五ヶ條の要求案を決議した。

■友愛會と技友會との最初の折衝

技友會は既に十四日の職工大會を自己單獨にて開き、要求案を可決したが、友愛會芝浦支部に對しては、何等事件の內容に就ての話しはなかつた。最も十二日に杉木彌助と記るせる個人の名刺の裏面に、用事があるから幹部に來て呉れと單に書いた一葉を